

A mosaic illustration of a pink, round-faced character with yellow hair, wearing a green and black patterned garment, set against a blue and white background. The character has large, dark eyes and a small, dark mouth. The background is composed of a grid of blue and white squares, with a yellow border around the character's head. The character's hair is yellow and styled in a bob. The character's body is pink and round. The character is wearing a green and black patterned garment. The overall style is a mosaic or pixel art.

■開催概要

展覧会名 The 50th Anniversary OSAMU GOODS 展
会 期 2026 年 8 月 1 日（土）→ 8 月 31 日（月）＊会期中無休
開館時間 午前 10 時～午後 8 時（入館は閉館の 30 分前まで）※そごう横浜店の営業時間に準じ、変更になる場合がございます。
会 場 そごう美術館（横浜駅東口・そごう横浜店 6 階）
〒220-8510 横浜市西区高島 2-18-1 電話 045（465）5515 [美術館直通]
入 館 料 一 般 1,400（1,200）円、大学・高校生 1,200（1,000）円、中学生以下無料
＊消費税込み。
＊公式オンラインチケットにてお求めの方は事前および会期中いずれも（ ）内の料金。
＊2026 年 7 月 31 日（金）までにそごう美術館にてお求めの方は（ ）内の料金。
＊会期中にそごう美術館にて [クラブ・オン／ミレニアムカード、クラブ・オン／ミレニアム アプリ] をご提示の方は（ ）内の料金。
＊障がい者手帳各種をお持ちの方、およびご同伴者 1 名さまは入館無料。

「オリジナルミュージアムトートバッグ」付チケット 3,500 円（税込）

OSAMU GOODS®×ROOTOTE×そごう美術館

A4 サイズ対応の「ミュージアムバッグ」（非売品）と
入館券がセットになったお得なチケット。
ここでしか手に入らない限定グッズです。

公式オンラインチケット限定 / 横浜会場限定

数量限定（予定数に達し次第、販売終了）

＊画像はイメージです。



グッズ詳細：ROOTOTE（ルートート）<https://rootote.jp/osamu-goods-202608/>

主催：そごう美術館、神奈川新聞社 後援：神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会
協力：コーギー本舗、トムズボックス、パレットクラブ 企画制作：コスモマーチャンダイズイング
会場構成：五十嵐瑠衣 アートディレクション：服部一成 協賛：そごう・西武

＊ご入館前にそごう美術館ホームページおよび会場入口掲示の「ご入館のお願い」をご確認ください。

＊展覧会・イベントの中止や延期、一部内容が変更になる場合がございます。最新情報は、そごう横浜店・そごう美術館各ホームページをご確認ください。

そごう美術館 ホームページ <https://sogo-museum.jp/> X（旧 Twitter）@sogomuseum

公式オンラインチケット <https://www.e-tix.jp/sogo-museum/>

そごう横浜店 ホームページ <https://www.sogo-seibu.jp/yokohama>

コーギー本舗「OSAMU GOODS」 <https://www.osamugoods.com/>

■先行特別鑑賞会 \開幕前日 100 名さまだけの特別な 2 時間／

開催日時：2026 年 7 月 31 日（金）午後 5 時～7 時（会場内自由鑑賞）

参 加 費：1,000 円（税込）会期中無料入館対象の方も有料となります。

定 員：100 名

申込方法：公式オンラインチケットによる事前購入。定員になり次第販売終了。

注意事項：＊販売サイトの注意事項を必ずご確認ください。

＊プレス取材・撮影が入る場合がございます。

＊ご参加の方に限り、午後 5 時～8 時まで、ミュージアムショップをご利用いただけます。

■ 展覧会概要

OSAMU GOODS（オサムグッズ）は、イラストレーター原田治（1946-2016）がイギリスの伝承童話マザーグースに着想を得て、1976 年誕生しました。イメージは 60 年代のアメリカの雑誌『Seventeen』などで目にした女の子や、ハリウッド映画に登場するかわいい女優さんたち。彼女たちの身のまわりにある小道具、生活雑貨もヒントになりました。原田治が掲げた“かわいい”の定義「明るく、くたくがなく、健康的な表情であること。そこにわずかな淋しさや切なさを隠し味にすること」—は、作品の中に鮮やかに表現され、1970 年代後半から 90 年代にかけて中高生から 20 代の女性を中心に絶大な人気を博しました。本展では、2026 年に 50 周年を迎える OSAMU GOODS の魅力を、当時の資料とともに紹介。時代を超えて多くの人々に愛される背景や、そのデザイン哲学に迫ります。

■ 日本のトップクリエイターがキュレーションした展覧会

会場構成を担当するのは近年、日本で話題となった数々の展覧会を担当されてきた、五十嵐瑠衣。キービジュアル制作からグラフィックデザインまでアートディレクションを担当するのは服部一成。2019 年から 2024 年まで全国巡回し好評を博した『原田治展「かわいい」の発見』のクリエイティブを担当するお二人による再びのタッグとなります。

* 会場構成：五十嵐瑠衣 LUI IGARASHI

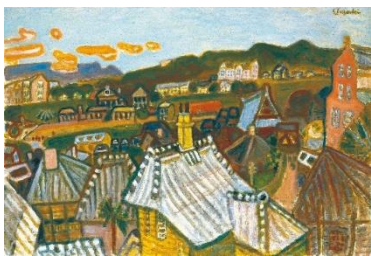
おもな仕事に、「単位展」（2015 年、21_21 DESIGN SIGHT／2016 年、台湾巡回）、「谷川俊太郎展」（2018 年、東京オペラシティアートギャラリー）、「デザインあ展」（2018-2021、巡回展）、「江戸東京シンク展」（2023、小石川後樂園）、「ヨシタケシンスケ展かもしれない」（全国巡回中）、『原田治展「かわいい」の発見』など。

* アートディレクション：服部一成 KAZUNARI HATTORI

おもな仕事に、キューピーハーフの広告、雑誌『流行通信』『here and there』『真夜中』のアートディレクション、「三菱一号館美術館」「新潟市美術館」「弘前れんが倉庫美術館」のビジュアルアイデンティティ、エルメス「petit h のオブジェたち」「夢のかたち Hermès Bespoke Objects」展のアートディレクション、バンド「くるり」のアートワーク、原田治『ぼくの美術ノート』『OSAMU'S A to Z 原田治の仕事』のブックデザイン、「杉戸洋展 えりとへり」（2025～6）コラボレーションなど。

■ 特別展示 そごう美術館所蔵品 鈴木信太郎コーナー

洋画家・鈴木信太郎を敬愛していた原田治。著書『ぼくの美術帖』（みすず書房）やブログ「原田治ノート」でも好きな画家として取り上げています。本展では、特別コーナーを設け、そごう美術館コレクションの中から風景画や静物画など選りすぐりの作品を展示いたします。



《長崎風景(丘の眺め)》1957(昭和 32)年
油彩・カンヴァス 80.3×100.0cm
そごう美術館所蔵



《白い服と黒い服の人形》1978(昭和 53)年
油彩・カンヴァス 53.0×45.5cm
そごう美術館所蔵

■ 夏休みこども企画「ジュニアルーム」

会場内に夏休みの宿題スペース「小・中学生優先ジュニアルーム(自習室)」を開設いたします。鑑賞のまとめや見学レポートの作成などにぜひご利用ください。

* 利用方法・開設時間など詳細は、2026 年 7 月 15 日（水）以降、そごう美術館ホームページにてご案内いたします。

■ もっと知りたい～OSAMU GOODS～ ■

OSAMU GOODS を知っていますか？

そんな質問を投げかけると、
「あの景品のだよね～」 「学生の頃持ってた～」 「見たことある～」 という答えがかえってきます。

皆さんが知っているという OSAMU GOODS ですが、実は大きく 2 つに分けられます。

ひとつは、企業からの依頼によって原田治がイラストを提供したもので、

商品企画・デザインは、その依頼企業が行っています。

多くの方が一番身近に感じているブランドコラボやキャンペーンのノベルティなどはその代表例です。

もうひとつは、原田治が企画、イラスト、デザインまで行い、「DUSTY MILLER」が制作したものになります。
日本で最初につけまづけを開発した老舗の化粧小物メーカー「コージー本舗」が 1976 年異業種に挑戦し、
OSAMU GOODS の制作・販売を行う DUSTY MILLER 社をコージー本舗内に立ち上げました。
その挑戦から今年 50 年を迎えたのです。

■ OSAMU GOODS とは

OSAMU GOODS は 1976 年、イラストレーター原田治が描くキャラクターをグッズ化し、株式会社コージー本舗が製造、関連会社の DUSTY MILLER 社で販売されました。当時発売された商品は、アイテムの決定から素材や形も含め、すべてのデザインを原田治が手がけ、その点数は 4000 点以上にも上りました。海外製の雑貨のような色使いやハイセンスなデザインが話題になり、「持っているだけで大人っぽい」そんな、他のファンシーグッズとは一線を画す憧れのアイテムとして、女子学生の間で一大ブームが巻き起こりました。

■ 原田 治 OSAMU HARADA (1946-2016)



©OSAMU HARADA

原田治が語る OSAMU GOODS

『OSAMU GOODS っていうのは部屋に生けてある花と似ていると思うんです。

生活に絶対なければいけないものではないけれど、あるととっても楽しい気分になってくるでしょう？

僕にとって OSAMU GOODS は言葉に変わるメッセージっていうところかな』

1946 年東京築地生まれ。青山学院中・高等部を経て、多摩美術大学グラフィックデザイン科を卒業。

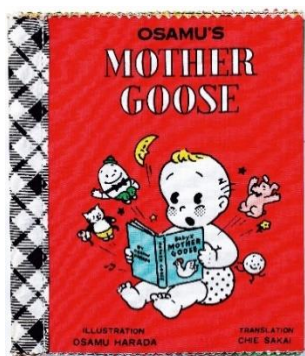
1970 年（24 歳）に、雑誌『an・an』（マガジンハウス）創刊号でイラストレーターとしてデビューし、雑誌や広告など幅広いジャンルで活躍。イギリスの童歌「マザーグース」をモチーフとして誕生した「OSAMU GOODS（オサムグッズ）」は 1976 年より商品化され、現在まで色褪せることなく多くの人に親しまれている。カルビー「ポテトチップス」のキャラクター「ポテト坊や（通称）」（1976 年）、ミスタードーナツのプレミアム（景品）イラスト（1984 年～）、崎陽軒の「ひょうちゃん」醤油入れ（1988 年）など多くの名作を残し、日本を代表するイラストレーターとして知られる。1997 年（51 歳）には、イラストレーターを養成する「パレットクラブスクール」を築地に設立。主な著書に『新装版 ぼくの美術帖』（みすず書房）、『ぼくの美術ノート』（亜紀書房）、絵本『かさ』（松野正子作／福音館書店）など。

■ 原田治のこだわり

① OSAMU GOODS のキャラクター

OSAMU GOODS はイギリスを発祥地とする伝承童話の「マザー・グース」をモチーフに誕生しました。1976 年に出版された『OSAMU'S MOTHER GOOSE』は OSAMU GOODS 全キャラクターを解説したマニュアルブックともいえます。この絵本の出版を元に、かわいいキャラクターたちは様々なグッズへ展開されることになりました。

1		JACK ジャック 代表的キャラクター。ちょっと気弱で、心やさしいジルの友人。 詩「JACK AND JILL」より
2		JILL ジル 代表的キャラクター。 ジャックの友人でしっかり者。 詩「JACK AND JILL」より
3		BETTY ベティ よそゆきの靴を片方なくしたかわいそうな女の子。 詩「LITTLE BETTY BLUE」より
4		HUMPTY DUMPTY ハンプティ・ダンプティ 塀から落っこちて割れてしまったかわいそうな卵のキャラクター。 詩「HUMPTY DUMPTY」より
5		OLD MOTHER GOOSE オールドマザー・グース がちようにまたがって自由に空を飛ぶことができるマザー・グースの象徴的存在。 詩「OLD MOTHER GOOSE」より
6		LITTLE PIG リトルピッグ 上機嫌でマーケットに出かけたり、わけもなく泣いてしまったり純粋でかわいらしい女の子の豚さん。 詩「THIS LITTLE PIG」より
7		DOG ドッグ 猫さん牛さんとともにHEY! DIDDLE, DIDDLEに登場し牛さんを見て大笑いする犬さん。 詩「HEY! DIDDLE, DIDDLE」より
8		CAT キャット 犬さん牛さんとともにHEY! DIDDLE, DIDDLEに登場しバイオリンを弾く猫さん。 詩「HEY! DIDDLE, DIDDLE」より
9		COW カウ 犬さん猫さんとともにHEY! DIDDLE, DIDDLE に登場しジャンプで月を飛び越えてしまう牛さん。 詩「HEY! DIDDLE, DIDDLE」より
10		GEORGIE PORGIE ジョージ・ポージー 女の子にいきなりキスして泣かせてしまう、やんちゃな男の子。 詩「GEORGIE PORGIE」より
11		DANCE TO YOUR DADDY ダンストゥアダディ パパから愛情に満ちたまなざしを注がれるかわいらしい赤ちゃん。 詩「DANCE TO YOUR DADDY」より
12		I SEE THE MOON アイシーザムーン お月さまの幸せを祈る素朴で心優しい男の子。 詩「I SEE THE MOON」より



『OSAMU'S MOTHER GOOSE』
布製絵本（コージ本舗） 1976 年



ポーチ 1980 年



「OSAMU GOODS NEWS VOL1」
会報誌創刊号 1991 年

② ターゲット

OSAMU GOODS は、中高生から 20 代女性を対象にした商品群を整えるという企画でスタートしました。デザインイメージは、60 年代のアメリカの雑誌『Seventeen』などで見ていた女の子や、ハリウッドの青春映画に登場する可愛い女優さんたちでした。彼女たちの身のまわりに置かれる小道具や生活雑貨もヒントになりました。原田治が掲げた“かわいい”の定義「明るく、くたたくがなく、健康的な表情であること。そこにわずかな淋しさや切なさを隠し味にすること」—は、作品の中に鮮やかに表現され、絶大な人気を博しました。



スクールバッグ 1982 年

OSAMU GOODS を代表するスクールバッグ。当時、革の学生鞆の持ち手にかけて持つことが流行しました。友人とお揃いや色違いで持ったり、マザーグースの詩が書かれたキャラクターのシルエットの裏面をわざと表面にしたりと、学生生活の楽しみが広がるグッズとなりました。

バッグには各キャラクターが登場し、色彩の種類も豊富で、顔は 4 回ほど描き変えられています。初期の OSAMU GOODS のキャラクターの目は楕円形の目に切りこみが入っているのが特徴です。これは「Sliced Eye（スライズド・アイ）」（パイを一切れ切ったようなかたちの目）と呼ばれる古いアメリカのアニメーションに見られる画法を取り入れたものです。しかしながら、この手法では幼い子どもの表情しか描けないからと、やがて切りこみのない目を用いるようになったそうです。

③ デザインコンセプト

東京の築地で輸入食料品の卸商を営む家に生まれた原田治は、“メイドイン USA”が身近な環境で育ちました。50～60年代のアメリカ文化のエキゾチシズムとノスタルジーを追いかけた青春時代。しかしながら、アメリカへの憧れが時代を経て懐かしむ思いへと変化したこともあり、1975年にOSAMU GOODSを制作する際に、そのデザインコンセプトを「失われた古きよき時代のアメリカ」としました。

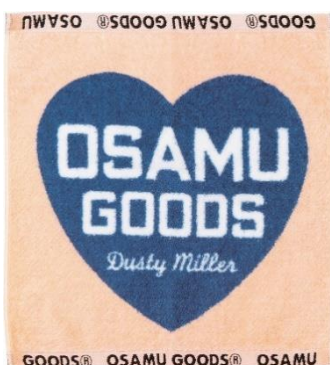


子どもの頃から日本のマンガよりアメリカンコミックやハンナ・バーベラのTVアニメに興味があったという原田治。コミック・ストリップ（ストーリーを一連のマンガやイラストで伝える）が掲載された輸入雑貨のようなパッケージにも原田治が求めたデザインコンセプトを垣間見ることができます。

歯ブラシ 1970年代後半～1980年代前半

④ ロゴデザイン

原田治はイラスト提供だけでなく、商品デザイン全般に関わっていました。特にロゴについてのこだわりは強く、自らグッズに合ったロゴを生み出しました。



タオル 1991年

イラストがなくロゴのみの商品も登場。

ロゴデザイン作りに影響を与えたエピソードとして、学生時代から東京・日比谷にあった輸入専門のドラッグストア「AMERICAN PHARMACY」に通いつめ、海外雑貨のロゴやパッケージデザインに夢中になったことや、子どもの頃から映画マニアで洋画のタイトルデザインに興味を抱いていたことが挙げられます。母方の祖父が映画監督の二川文太郎（代表作は阪東妻三郎主演の「雄呂血」）で、映画会社のタイトル部で若い頃にロゴタイプのデザインをしていたこともあり、『ぼくは遺伝的にタイトルデザイン好きなのけでした』と原田治は述べています。

⑤ ものづくり

職人気質の原田治はデザインのみならず「もの」にも徹底してこだわりました。ノートはアメリカの文房具をイメージして、裏表紙に薄い赤紙をはさんだり、マグカップやグラス、鉛筆 1 本にしても好みの形やクオリティをとことん追及したり。他のファンシーグッズに比べてやや高価でしたが、ファンは「もの」を通して多くのセンスや価値観を受けとっていました。



グラス 1991 年

⑥ ファンの宝物

OSAMU GOODS は、商品を作って販売するだけでなく、ファンへのサービス、接点を大切にしていました。

「OSAMU GOODS STYLE」

1992 年、OSAMU GOODS が誕生して 16 周年を迎えた年に発行されたファンクラブ会報誌。原田治の美学、大人の遊び心がすみずみまで散りばめられ、8 号まで作られました。モノクロに赤を配したデザインは、原田治が愛するアメリカの雑誌『LIFE』へのオマージュ。原田治が編集とデザインを手がけ、また表紙写真も自ら撮影しています。古きよきアメリカへの憧れがビジュアルや文章で表現された高感度で刺激的な内容となっています。中面にはグッズと似合う家具や小物にも徹底的にこだわって撮影された OSAMU GOODS のある風景が並んでいます。



第 5 号の表紙は、エッフェル塔の前の公園で、ポケットに入れて持っていた OSAMU GOODS の豆本を片手に原田治が撮ったものです。左上には赤の四角いロゴが入ることをふまえてレイアウトを考えていたところ、ちょうど右から車が来たのでこれも画面に入れようと、決定的瞬間の撮影に成功した一枚になります。

季刊小雑誌「OSAMU GOODS STYLE」NO.5 1993 年

「ショップバッグ」

OSAMU GOODS を買うと、商品を入れてくれるショップバッグ。これが欲しくてグッズを買う人、グッズを買っても商品を入れないでバッグは別で持ち帰る人も続出しました。裏面は英字新聞のような体裁で、季節のおすすめや、ファッション記事、エッセイなどセンスを磨くヒントが掲載されていました。



ショップバッグ vol.23 1983 年



ショップバッグ裏面「夏休み」にちなんだ掲載記事

ORIGINAL

MOBILE

夏休み、ちょっとアートをしてみよう

アメリカにカルダーという、モビールを創り続けているアーティストがいます。この人の手によるモビールは、小さいものからドデカイものまで、なんかとても素朴で可愛らしく、未来的で美しい。シンプルな形だから、日分でもマネッコできそうで、夏休みを利用して、インスタント・モビール・アーティストになるのも良いな、と思います。

本当はバランスを計算して、その上で創っていくオブジェですから難しい。でも敢えて挑戦です。最近、アートが魅力的だから。軸は太めの針金。先に何を付けるかが、センスを問われるところで、アクリル材、海で拾った貝、コルク、小さな石ころ、海綿……なんでもいい。透明の泡のつまったアクリル棒を数本使うのもきれいだし、小さなカクテルグラスでバランスを取って行くのも面白いでしょう。スタンドグラスの破片を組合わせて、動物を形どって行くのも楽しそう。要は、市販のおもちゃっぽいモビールとは一味違うアート感覚のもの、という意識です。アートが風に吹かれてユラユラ動いている図なんかカッコイイ。しかも、世界にひとつしかないオリジナル・モビールなんだから、ちょっとアーティスト気分になりますね。

■ 広報用画像

* 画像をご希望の方は ARTPR へお申込ください。 <https://www.artpr.jp/sogomuseum>

* 掲載前の確認「校正原稿」送付先：以下 2 か所のアドレスへ同時にお送りください。

① そごう美術館 学芸担当：二宮 kazue-ninomiya@sogo-seibu.co.jp

② そごう美術館 共有：5515@sogomuseum.onmicrosoft.com

そごう美術館 OSAMU GOODS展 広報用画像一覧							
画像							
必須 キャプション			タオル 1991年	歯ブラシ 1970年代後半～ 1980年代前半	スクールバッグ 1982年	グラス 1991年	グラス 1991年
必須 ©	©Osamu Harada/Koji Honpo						
記載不要 画像説明	キービジュアル (CMYK)	キービジュアル (RGB)				JACK	JILL
画像							
必須 キャプション	ショップバッグ vol.23 1983年		季刊小雑誌 「OSAMU GOODS STYLE」 NO.5 1993年	『OSAMU'S MOTHER GOOSE』 布製絵本 (コージー本舗) 1976年	ポーチ 1980年	「OSAMU GOODS NEWS VOL1」 会報誌創刊号 1991年	『Osamu Goods go to HAWAII』 写 真集 (コージー本舗) 1989年
必須 ©	©Osamu Harada/Koji Honpo						
画像							
必須 キャプション				ミュージアムトートバッグ (横浜会場限定/公式オンライン限定) ※画像はイメージです ※予定数に達し次第販売終了		鈴木信太郎 《長崎風景 (丘の 眺め)》1957年 そごう美術館所蔵	鈴木信太郎 《白い服と黒い服 の人形》1978年 そごう美術館所蔵
必須 ©	©Osamu Harada			©Osamu Harada/Koji Honpo			
記載不要 画像説明	原田 治	チラシ 表	チラシ 裏	表面	裏面	油彩・カンヴァス	油彩・カンヴァス
				ミュージアムトートバッグ画像を使用の 際は、掲載時期によっては、販売終了の 場合がありますので、ご注意ください。			

- **用途の限定**：本リリース掲載の画像は、本展覧会の紹介・報道目的でのみご使用いただけます。
- **トリミング・加工の禁止**：画像のトリミング（一部切り出し）、文字乗せ、色調の変更、および反転などの加工は著作権侵害となるため、固くお断りいたします。画像の全体像をそのままご使用ください。
- **コピーライト・クレジット・キャプションの掲載**：画像を使用する際は、以下の一覧に指定されている内容を掲載ください。
©Osamu Harada/Koji Honpo は、画像ごとではなくページに 1 か所で OK。
- **掲載後の見本（同録）ご提出**：掲載・放映された紙面、URL、番組アーカイブなどはお送りいただけますようお願いいたします。
- **二次利用の禁止**：ダウンロードした画像データの転載、第三者への譲渡、および記事掲載以外の二次利用は禁止いたします。